

長崎の林業

小曾根星堂書



山と水が育む、上ノ地区の棚田風景 ～緊急総合治山工事の現場から～（波佐見町）

9

目次

| | | |
|-------------|---|-----|
| ● 林政だより | 農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守る治山事業 ～台風時期の災害に備えよう～ | 2～3 |
| ● 特集記事 | 古民家と公園から広がる森づくり のだけの森こうえん 代表 野口敏幸さん | 4～5 |
| ● 林業普及だより | 学んで育てる里山の未来～南島原市みんなの森守協議会～ | 6 |
| ● 地方だより・五島 | 新上五島町地域おこし協力隊 森桜 隊員 | 7 |
| ● 地方だより・対馬 | 対馬木材業組合の安全大会が開催されました | 8 |
| ● 林業団体情報 | 林業事業体雇用管理研修会を開催しました | 9 |
| ● センターだより | ヤブツバキの幹に寄生するヒノキバヤドリギの駆除方法 | 10 |
| ● イベント情報・島原 | 南島原市 秋の栗拾い体験会 | 11 |
| ● 長崎の山と森 | 彼杵付近のクスの大樹 ～記録に残り、記憶に生きる巨樹～ | 12 |

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税を活用して発行しています。



2025 No.826

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。

「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



林政だより

農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守る治山事業 ～台風時期の災害に備えよう～



平戸市 主師町 白石地区（治山事業施工事例）

はじめに

近年、線状降水帯や台風の発生など、集中豪雨が頻発する傾向が高まり、これまでにない激甚な災害が発生しやすい状況にあります。

県内においても、「令和3年8月の大雨」、「令和2年7月豪雨」などにより、山腹崩壊や地すべり等が発生しており、直近では令和6年5月、11月にも大規模災害が発生し、人命・建物・農林業関係に甚大な被害を及ぼしました。

本県は、年間降水量が1,895mmと全国平均の1,662mmより多く、また離島・半島部を多く抱え狭隘な土地に集落等があり、山地災害が発生しやすい状況となっています。

こうした災害の未然防止と被害を最小限に抑えるためには、山地災害の発生に備え県民の方々に災害の恐れがある地区がどこにあるか知っていただき早期の避難に繋げる必要があります。

農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守る治山事業

治山事業とは、森林の維持造成を通じて、山地災害から国民の生命・財産を保全するとともに、水源の涵養、生活環境の保全・形成を図る事業です。県では、農山村地域の安全・安心で快適な暮らしを守るため、森林法に基づき、保安林に指定または指定見込みの森林において、国の補助事業や県の単独事業により治山ダムを設置や森林整備などの治山事業を実施しています。



平戸市 高越町 高越地区
（令和6年11月の大雨による被災箇所）

山地災害危険地区について

県では、地形や地質、植生等の条件を踏まえ、森林の状態を評価し、人家、道路等の公共施設に被害が及ぶおそれがある地区を「①山腹崩壊危険地区」、「②地すべり危険地区」、「③崩壊土砂流出危険地区」として判定し、県のホームページ「長崎県総合防災ポータル」の総合防災 GIS^{※1}に掲載しています。

梅雨や台風の時期を前に危険な箇所がどこにあるのか、災害に備えて普段から家族や地域で危険地区や避難場所や避難経路について話し合うとともに、実際に自分の目で確認しておきましょう。

自助・共助の意識を高めて減災！

災害を未然に防ぐためには、自らを守る自助と周辺の方々と協力し合う共助による自主防災が、最も効果を発揮します。

また、異常時の変化に気づく目を養うことも重要であり、山地災害の兆候として、図2に示すような現象があげられます。

山地災害はいつ起きるか分かりません。近隣の山林などで異変を感じたらすぐに避難すること、そして、地域の安全確保のためにも最寄りの市町、消防署などへの情報提供をお願いします。

(森林整備室 森林土木班)



図1 山地災害危険地区のイメージ



図2 山地災害の危険信号の例

※1 長崎県総合防災 GIS <https://www.bousai.pref.nagasaki.jp/>

【特集記事】 古民家と公園から広がる森づくり



のだけの森こうえん
のぐち としゆき
代表 野口 敏幸さん

今回ご紹介するのは「のだけの森こうえん」代表の野口敏幸さんです。

知恵を、世代を超えて伝える場として活動を続けています。

自然と共に育ち、地元へ帰郷

野口さんは大村市東野岳町の古民家に生まれ、野田集落で農家を営む家庭で育ちました。子どもの頃は近くの川や池で遊び、自然の中でのびのびと過ごしました。高校卒業後に一度は大手運送会社の名古屋支店に勤めましたが、その後25歳で農家の長男として地元へ戻り、建材店に40年間勤務しました。定年を迎えた後、今の子どもたちに、自然と共存する素晴らしさを伝えるため「昔の暮らしを体験できる場を作りたい」との思いから、平成28年7月に野岳湖畔へ「古民家風体験工房のだけ村」を新築オープンしました。春は桜、秋は紅葉が彩り、運動場、レンタサイクル、キャンプ場などを備えたこの施設は、年間2万人が訪れる大村市の新たな観光拠点となっています。古民家風体験工房ではBBQ、かまど・囲炉裏体験や流しそうめんも楽しめ、宿泊希望の方のために、ゲストハウスもあります。このように、昔の暮らしや

古民家と「手作り公園」への挑戦

定年を迎えた野口さんは、もう一つの夢「手作り公園」の実現に動き出しました。野口さんは核家族化や共働きなど社会の変化に伴い、希薄と感じられるようになった人と人との“つながり”を取り戻したいと考えていました。そこで、2020年に隣接する学童クラブの代表と共に1,700坪の山林を購入し、その土台となる公園作りをすることを決意しました。目指したのは、みんなが「集い、憩い、癒され、遊び、学べる」場所です。思い描く完成はまだですが、今後も県民の皆さんと協力して“みんなの公園”を作っていきたいと考えています。

公園から広がる森づくりと防災

野口さんは運営の一環として公園や周囲の土地状況を確認している際、多くの木々が立ち枯れしていることに気づきました。独自に調べを進める中で、「ナラ枯れ」と



ナラ枯れ研修会の様子

という言葉や、その被害の深刻さを知りました。山林の樹木が枯れると景観や生態系への悪影響に留まらず、倒木による死傷事故の誘発といった公園で遊ぶ子どもたちへ与える危険性も高まります。こうした危機感から、野口さんは長崎県や大村市の行政に相談して対策の必要性を訴えました。

その活動はやがて「ながさき県民参加の森林づくり事業」へとつながり、2025年5月9日には、ナラ枯れ研究の第一人者である京都府森林技術センターの小林正秀博士を講師に招き、原因と防除法に関する研修会を開催。座学と施工実習を通じ、参加者は防除作業を実践的に学びました。会場には県民の皆さまや林業関係者、自治体職員、樹木医など幅広い層が集まり、被害拡大防止の対策方法について理解を深めました。

研修会終了後も反響があり、県の農林技術開発センターとナラ枯れ対策の実証事業を実施することになりました。また、離島を含む地域に向けた研修を、この公園で実施することも検討されています。さらに、広大な山林を管理する団体からも相談があり、資材提供や施工の情報提供を行っています。

野口さんは「地球温暖化や生活様式の変化により、私たちの暮らしと山林との関わりが大きく変わってきています。昔は風呂を沸かすにも炊事をするにも薪を使い、竹は野菜の支柱や農具に使い、炭焼きなども

盛んで、山林は人々の生活に欠かせない存在として、常に手入れされていました。山林の人の手による循環が止まったことが環境問題の一因ともなっています。」と語ります。今後も実践的な研修や地域ぐるみの取り組みを通じ、健全な山林を次世代に引き継いでいく考えです。

これからの夢と地域への願い

野口さんは、数年後には学童クラブの代表に公園と事業を譲り、自宅の古民家とゲストハウスの運営を続ける傍ら、ナラ枯れ対策を今後も継続していく意向です。専門家によれば防除処理を行うことで5年後には被害が収束する見通しで、その間も事業を承継した相手と連携し、森の保全活動を続ける考えです。

「いずれは“フーテンの寅さん”のように、あてもなく旅に出たい」と野口さんは、もう一つの夢を語ります。この原動力は、幼い頃に自然と触れ合った経験と、地元を愛する気持ちです。野口さんの古民家と公園は、地域の人々が集い、憩い、癒され、遊び、学べ、そして未来へとつながる場所であり続けています。



公園に設置されたナラ枯れ対策のトラップ

(NPO法人地域循環研究所)

林業普及だより

学んで育てる里山の未来 ～南島原市みんなの森守協議会～

はじめに…

南島原市で活動するボランティア団体「南島原市みんなの森守（もりもり）協議会」（長橋世紀会長）は、平成22年から13年間にわたり、イオン環境財団の協力のもと、広葉樹55,500本を植栽した「南島原イオンの里山」（南有馬町上原地区）を拠点に、里山の保全と活用に取り組んでいます。春のタケノコ掘り、夏のデイキャンプ、秋のクリ拾い、冬の星空観察など、四季折々の里山の自然を活かした市民参加型の体験学習を開催しており、毎回10組以上の地元の家族が公募を通じて参加しています。また、早稲田大学の学生による里山研究の受け入れなど、学術的な連携も行っています。

竹林を活かした活動

協議会が管理する里山には竹林もあり、メンバーがボランティアで整備を行っています。その竹林を活かした活動を紹介します。

昨年夏に開催されたデイキャンプでは、参加した10組の家族が竹を切り出し、長さ2メートルに揃えて束ねてテントを作成。その後、竹に切れ目を入れて作った「竹飯ごう」でご飯を炊き、カレーを食べました。自分たちで作った竹飯ごうで炊いたご飯は格別の美味しさだったようです。午後からは森林の浄水作用について模型を使った学習を行い、採取した葉をスタンプしてオリジナルのエコバックを作成。暑い中でしたが、参加者は1日を通して里山の魅力を満喫しました。



竹テントづくり

今年の春には、2回にわたってタケノコ掘り体験を開催し、計14組の親子が参加しました。竹に関するクイズを通じて竹とタケノコについて学んだ後、協議会が管理する竹林に移動し、親子で協力してタケノコを掘り出しました。今年は「裏年」で前年より少なめでしたが、それでも各家庭が袋いっぱいタケノコを持ち帰ることができ、笑顔あふれる体験となりました。



タケノコ掘り体験

おわりに…

こうした活動が広がる一方で、竹林を管理するメンバーの高齢化や後継者不足といった課題も抱えています。竹林を活かした活動を継続していくためには、メンバーによる竹林の手入れは欠かせません。多くの方々に里山の恵みを体感していただき、森林の大切さに関心を持っていただけるように、今後も協議会の活動をサポートしていきたいと思えます。

（島原振興局 林務課）



整備された竹林

地方だより

新上五島町地域おこし協力隊 もりさくら 森桜 隊員



地域おこし協力隊員 森桜さん



下刈作業後の森桜さん

新上五島町では現在8名の地域おこし協力隊員が活躍されています。今回は令和6年1月に就任し、農林課に配属された「森桜」さんを紹介します。

福岡県北九州市出身で、高校卒業後は飲食店を営んでいましたが、コロナ禍の影響で経営活動の縮小を余儀なくされました。そのような状況の中、自粛期間中に始めた農業や野草の収穫をきっかけに自然環境への関心が高まり、第一次産業への就業を視野に入れました。

その後、旅行で訪れた新上五島町で、海と自然、町の調和に魅力を感じ、同町での地域おこし協力隊の募集を知ったことをきっかけに、移住を決断されました。

協力隊員としての活動

地域おこし協力隊として、五島森林組合上五島支所の一員として、刈払機を使用した作業や伐倒作業、調査・測量、島外出荷等に従事しながら、森林のフィールドで活躍できるよう様々な資格取得に向けて日々奮闘しています。林業は体力を要する仕事であり、危険な作業も多いため、全国的にも女性林業従事者は少数ですが、森さんは林業への強い思いや持ち前のコミュニケーション能力を活かし、日々の活動に励んでいます。

休日は、廃材を利用して作った屋台で駄菓子屋の運営や、地域の資源である樺を活用した炭作り、樺木木工技術振興会での活動を

行っています。さらには「木工ワークショップ」と題し、島の子どもたちと楽器作りに取り組むなど、多岐にわたって活動しており、今年度からは長崎県森林審議会委員にも就任いただいています。



廃材を利用して作った駄菓子屋を運営

最後に

「新上五島町で林業に従事して、現場作業と子育ての両立ができるかどうか体力的な不安もありましたが、林業の魅力に惹かれ、現在の仕事を楽んでいます。地域おこし協力隊任期後は五島森林組合への就職を希望しています。『やったことない』をきっかけに変った自分の活動を発信しながら、新上五島町の森林・林業分野、業界自体を盛り上げていけるよう頑張っていきたい。」と語ります。県としても、森桜さんとともに、新上五島町の林業を盛り上げていきます。

(五島振興局 林務課)

地方だより

対馬木材業組合の安全大会が開催されました

安全大会を実施

令和7年6月8日（日）に対馬島内の林業現場にて、林業作業員の安全意識向上、技術向上及び林業の活性化を目的として、林業労働災害の事例紹介や伐倒方法についての意見交換会が開催されました。対馬島内の林業関係者38名の参加がありました。

林業労働災害事例紹介

対馬木材業組合からの依頼を受け、県内で起きた林業労働災害事例を紹介し、注意喚起を行いました。また長崎森林管理署からも九州内で起きた林業労働災害事例の紹介がありました。過去の事故事例を知り、危険な状況や原因、対策を学ぶことは事故の未然防止につながります。事故には至らなかったものの危険を感じたこと（ヒヤリハット）を共有・周知することも事故未然防止に有効です。二度と同じ災害が起きないように、今後もこのような事例紹介による注意喚起を行っていきます。



事例紹介の様子

模擬伐倒・意見交換

林業労働災害の中でも、伐倒作業中の事故が多くを占めることから、林業で働く4名に模擬伐倒を行っていただき意見交換を行いました。伐倒方法については、歩く度にチェーンソーのロックをかけることや、指差し呼称（上、周囲、伐倒方向、退避場所、受け口、追い口「ヨシ！」）を行うことなど、失念しがちな部分を確認しました。



模擬伐倒の様子

また、切り株を見ながら、受け口の深さやつるの残し方の注意点などについて話し合いました。自分の伐倒の癖や性格を知ることも重要です。作業員同士での意見交換も活発に行われ、安全意識向上につながる研修となりました。



意見交換の様子



切り株

おわりに

林業労働災害は基本事項を守り、様々な危険事項を予測し対処することで未然に防ぐことができます。定期的に安全講習を受けたり、禁止とされている事項を徹底したりすることが重要です。引き続き林業作業員、林業関係者の安全意識の向上及びゼロ災を目指していきます。

（対馬振興局 林業課）

林業事業体雇用管理研修会を開催しました

はじめに

令和7年7月11日（金）に大村市中央公民館で県内の林業事業体を対象に雇用管理研修会が実施されました。

この研修会は、全国森林組合連合会から長崎県林業協会への委託事業の一つで、林業労働者の雇入れや雇用保険などについて雇用管理者が管理しなければならない事項や雇用管理改善に関する研修です。

現在、県内の認定林業事業体は8つの森林組合を含み37事業体ありますが、その内6事業体9名の方が参加されました。

そのほか長崎県森林組合連合会や県林政課、県央振興局林業課、島原振興局林務課を合せ総勢17名の研修会となりました。



（研修状況）

育児・介護休業法の改正

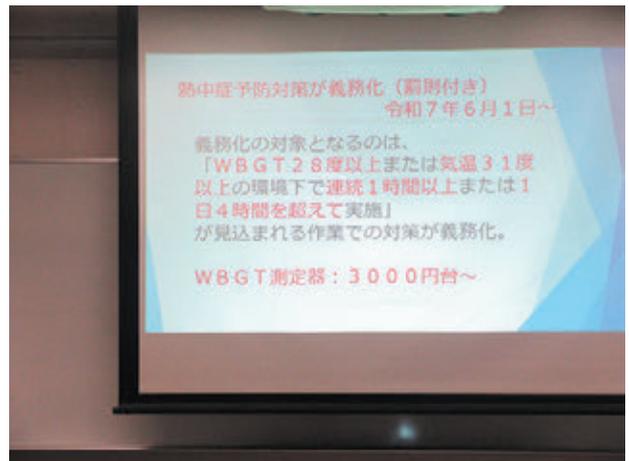
講師は、社会保険労務士事務所オフィスモリの森様で、育児・介護休業法の改正について、講義していただきました。

平成4年の「育児休業法」の施行に始まり、子育てに対する支援は年々拡大され、今年の10月からは、子育てを行う労働者に対するテレワークや短時間勤務制度など柔軟な働き方が実現できる措置の実施が義務化される予定となっているようです。

熱中症予防対策の義務化

今年の6月1日からは熱中症予防対策の義務化がすでに実施されていますが、義務化の対象となるものは「温度と湿度を加味した暑さ指数が28度以上、または気温31度以上の環境下で連続1時間以上または1日4時間を超えての実施が見込まれる作業」となっており、夏場の下刈り等の森林作業は、ほぼ該当するものと考えられます。

その対策としては、熱中症の自覚症状がある労働者や熱中症の恐れがある労働者を発見した時の緊急連絡体制の整備や、重篤化を防止するために必要な措置のマニュアル作成となっています。



（熱中症予防対策講義状況）

おわりに

林業における労働安全対策は、林業振興における重要課題の一つと考えます。

特に林業担い手育成対策推進の観点から森林作業における伐倒等の安全技術研修や事務所における雇用管理体制整備は、現場と事務所の連携により並行して行う必要があります。

さらに、労働安全の確保と賃金を含めた職場環境の整備、それと木材流通まで勘案した生産性の効率化を三位一体で進めることで、林業が健全なる産業として発展していくことが期待できると考えます。

センターだより

ヤブツバキの幹に寄生する ヒノキバヤドリギの駆除方法

はじめに

五島列島では、ヤブツバキに半寄生するヒノキバヤドリギの被害が広がっています（写真1）。ヒノキバヤドリギは、ほかの植物に寄生し、水分や養分を吸器部分（写真2）から吸収します。ヒノキバヤドリギが群生すると寄生する植物を弱らせ、枯死させてしまうこともあります。

その駆除方法は、林内にヒノキバヤドリギを残さないように断幹して林外に搬出する方法が最も効果的です。しかし、断幹はツバキの樹体を大きく損傷させるので再び実を収穫できるようになるまでに時間がかかってしまいます。そこで樹体を傷つけない方法を考える必要がありました。

これまでの研究で、直径1cm程度の枝に寄生した場合の駆除方法として、アルミテープを吸器部分に巻いて遮光することが有効とわかっていますが、幹（2～7cm）に寄生した場合の駆除方法は不明でした。そこで今回



写真1 ヒノキバヤドリギによって衰弱したツバキ



写真2 ヒノキバヤドリギの吸器部分

は幹に寄生したヒノキバヤドリギを遮光することで駆除できるのかを試験しました。

試験方法と結果

試験では、幹に寄生したヒノキバヤドリギの吸器部分以外を取り除き、残った吸器部分にアルミテープを密着させて巻きつけました（写真3）。

その結果、アルミテープを巻き約400日経過すると、9本中8本の吸器部分が枯れました（写真4）。この結果から幹に寄生したヒノキバヤドリギもアルミテープを用いた遮光で駆除できることがわかりました。

おわりに

実施する際、アルミテープは自然に剥離するため、3か月に1度程度の確認をおこない、剥離していた場合は交換してください。

当センターは今後も特用林産物に役立つ情報を発信していきます。



写真3 アルミテープによる遮光状況



写真4 吸器部分の枯れ状況

（農林技術開発センター）

イベント情報

南島原市 秋の栗拾い体験会

南島原市南有馬町の「南島原イオンの里山」において、秋の栗拾い体験会が開催されます。この里山は、(公財)イオン環境財団と南島原市が協力して整備した森林体験フィールドで、平成22年から24年にかけて約55,000本の広葉樹が植樹されました。その中にはヤマグリ約500本も含まれており、現在は収穫できるまでに成長しています。

体験会では、秋の味覚であるヤマグリを自分の手で収穫し、その場で栗ご飯を炊いて味わうことができます。

ご家族での参加大歓迎。この機会に是非秋の味覚を味わいに来てください！

参加方法など詳細については、南島原市農林課のホームページにて公表予定ですので、そちらをご覧ください。



南島原市農林課HP

(島原振興局 林務課)



(栗ご飯を炊くための竹飯ごう作りの様子)

伊万里木材市況

【ヒノキ】

令和7年8月現在

| 長さ | 径級 cm | 等級 | 高値 (円/㎡) | 現在出荷量 | 現在引合 | 需要見通 |
|----|-------|-------|-------------------|-------|------|------|
| 4m | 16~18 | 直 | 23,800 | 少ない | 多い | 多い |
| | 16~18 | 小曲り | 22,100 | 少ない | 多い | 多い |
| | 20~22 | 直 | 22,700 | 少ない | 多い | 多い |
| | 20~22 | 小曲り | 21,600 | 少ない | 多い | 多い |
| | 24~28 | 直・小曲り | 22,000 ~21,000 | 少ない | 多い | 多い |

【スギ】

令和7年8月現在

| 長さ | 径級 cm | 等級 | 高値 (円/㎡) | 現在出荷量 | 現在引合 | 需要見通 |
|----|-------|-----|----------|-------|------|------|
| 4m | 18~22 | 直 | 15,000 | 少ない | 多い | 多い |
| | 16~22 | 小曲り | 13,000 | 少ない | 多い | 多い |
| | 24~28 | 直 | 15,000 | 少ない | 多い | 多い |
| | 24~28 | 小曲り | 13,000 | 少ない | 多い | 多い |

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

彼杵付近のクスの大樹 ～記録に残り、記憶に生きる巨樹～



写真① 彼杵付近のクスの大樹

【記者】：今回は、かつてシーボルトが記録したという「彼杵付近のクスの大樹」について、樹木医の久林さんにお話を伺います。まずはシーボルトについて簡単に教えていただけますか？

【久林さん】：シーボルトは江戸時代に来日したオランダ商館医で、長崎の鳴滝塾で日本人に西洋の医学や科学的な考え方を伝え、日本の近代化に大きな影響を与えました。医術だけでなく植物学にも精通し、日本各地で植物を採集し、ヨーロッパに紹介した人物でもあります。

【記者】：そんな彼が記録した植物の一つが、東彼杵町のこのクスノキだったですね。

【久林さん】：はい。シーボルトの『日本』という著書に紹介されています（写真①）。根元の周囲が約16.9メートル、幹には高さ約2.5メートルの空洞があって、15人が中に入れたという驚きの記録が残っています。

【記者】：すごい規模ですね。その木は今も残っているのでしょうか？

【久林さん】：残念ながら、明治時代に小学校建設の費用捻出のために伐採され、樟脳採取業者に売却されたそうです。しかし地元の人々はその後2代目のクスノキ（写真②）を植え育て、失われた初代の木を偲んで「大楠大明神」と刻まれた石碑も建てられました。

【記者】：学校の名前にも残されたとか。

【久林さん】：はい。地域名は「二ノ瀬」ですが、小学校の名前は「大楠小学校」でした。校歌にも「大楠」が詠われていて、地域のシンボルとして根づいていたことがわかります。今は閉校していますが、クスノキは元気に育っていて、今後の成長が楽しみです。

【記者】：最後に、久林さんがこの木に感じる思いを教えてください。

【久林さん】：記録として残されただけでなく、地域の人々の心に生き続けている点がとても印象的です。植物は命を引き継ぎながら、記憶を形にしてくれる存在。これからも見守っていきたいですね。



写真② 2代目のクスノキ

所在地：東彼杵郡東彼杵町菅牟田郷

樹高：16 m 幹周り：4.5 m

長崎の林業 9月号 第826号
編集・発行 長崎県林政課
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号
電話：095-895-2988
ファクシミリ：095-895-2596
メールアドレス：
s07090@pref.nagasaki.lg.jp